



北上川

学校教育目標
かしこく やさしく たくましく
～ふるさとを愛し、未来を創る川崎の子～

一関市立川崎小学校 校報 No.28
令和8年1月28日発行
文責 山戸

ある日の風景より！ (子どもたちの掃除の様子です)

少々大袈裟かもしれません、「子どもの成長は『掃除時間』に見える」。「真面目に掃除ができる子どもは、心身共に健やかに成長していく（に違いない）」。と感じるときがあります。

日本の多くの学校で設定されている「清掃の時間」ですが、世界的に見ると子どもが学校を掃除する国は少ないのだそうです。しかし、近年、このような日本の取組を見て、海外の学校で掃除の時間が導入される例が増えているとのことです。

さて、一日の生活の中で教師が指導に関わる時間は、大きく「朝の活動（朝学習、朝の会）」、「授業」、「給食」、「掃除」、「帰りの会」の5つがあります。他にも「委員会」や「クラブ」、「学校行事」などがありますが、毎日繰り返される基本的な活動は先の5つです。

その中でも特に「掃除」は、子どもたちの「思いやり」や「やる気」、「真剣さ」がないと成立しない活動です。

川崎小学校は、縦割り清掃を実施していますが、10数人の職員が分担して、担当場所を行き来しながら一緒に掃除をしたり、指導をしたりしています。つまり子どもだけの活動になる場面も、当然でできます。「とことんきれいにしてやるぞ」というやる気を持ち、思いやりを持って友達と協力しながら、サボろうと思えば簡単にサボれる掃除に真剣に真っすぐに向き合うことが必要な活動です。

何事にも真面目に、真剣に、本気で取り組んでいる子どもは掃除にも一生懸命です。たかが掃除、されど掃除。川小の全ての子が、本気で掃除に取り組む姿を夢見ています。

＜本気で掃除に取り組む子どもたち＞



決して油断はできません！ 今月も県内では、クマの目撃情報が入っています。

最近の主な目撃情報（2026年1月時点）

- 1月23日：盛岡市松園、洋野町大野で目撃。
- 1月21日：盛岡市小鳥沢で目撃。
- 1月19日：盛岡市東松園で1頭目撃、洋野町平内地区でも目撃。
- 1月13日：宮古市刈屋で子グマ1頭が小屋に侵入し捕獲。
- 1月上旬～：滝沢市牧野林の農地周辺などで目撃。



一関方面では聞こえきませんが、県内を見渡すと上記のように多数のクマの目撃情報があります。学校では、現在も休み時間には音楽を流してクマが学校に近づかないようにすることと、職員による見守りを継続しています。子どもたちには、万が一遭遇したときの対応について、継続的に指導しているところです。

「やっぱり『やさしい（正しい）ことば遣い』が大切！」

「やさしいことばをつかいましょう。」と、常日頃から子どもたちには伝えているところです。やさしいことばを子どもたちが友達や先生に話せればいいなあと、いつも願っています。私事になってしまいますが、「ことば」にまつわるエピソードを一つご紹介します。

冬休み中、とある他県の温泉にて。

早めに宿に着き、「独泉」していたところ、一組の親子が入ってきました。学年からすると3年生か4年生ぐらいでしょうか。その親子の会話です。

父：お前、冬休みの宿題終わったのか？さっさと全部やっちまえばいいのに。



子：やってねーよ。うるせえなあ。

父：だから毎年、最後の日が大変になんだろー。

「子：やってねーよ。うるせえなあ。」のあと、てっきり「父：何だその口のきき方は！」と注意が入るのかと思ってドキドキしながら聞いていたのですが、会話はそのままの調子で変わらずに進んでいきました。

フレンドリーな親子関係と言えばそうなのですが…。

親子の会話ですから誰にも迷惑はかけていません。100歩～1000歩譲って、「どうぞご自由に」ではあります。ただ、その子どもが、他の場面では正しくことばを選び、正しく使ってくれていることを願わざにはいられませんでした。そして、その父親が家庭では、「ところでお前、学校ではどんな言葉を使っているんだ？」という話をしてくれていることを信じたいところです。

大人にとっても子どもにとっても「ことば」は大事な「道具」です。「私のことば遣いはどうだったかなあ。」などと考えていたら、あっという間に2時間が過ぎていました。のぼせました。